

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

企業は既得権益に浸って競争力を失った 入山 章栄 (早稲田大学ビジネススクール教授)

1. 日本経済の復活には企業間で切磋琢磨(せつさたくま)を重ねる必要があるが、どうでもいい規制があまりにも多すぎる。企業は既得権益に浸って競争力を失い、新しい事業を生み出す可能性を手放している。守るべき規制を拡大解釈し、守らなくてもいい規制まで設けている環境は、企業同士のなれ合いつながる。そのため日本と世界の間に横たわる格差が拡大してしまう。
2. その穴埋め策として重視するのは「非市場戦略」、いわゆるロビー活動だ。ビジネスの勝負はルール作りから始まっている。市場で正々堂々と闘う前に、ルールの隙間を泥臭く縫って、自分たちに有利な障地をつくる。その感覚が日本企業は圧倒的に弱い。施策や規制の形成に関与する人たちと接触しているロビイストと、情報を交換する場所が全く足りていない。
3. ほとんどのビジネスは「白か黒か」ではなく、グレーゾーンで勝負が決まってしまう。鍵を握るのは、企業が専任の部署を設け、政府側と積極的に接触するガバメント・リレーションズ(GR)だ。日本でもロビイストのマーケット構築が望ましいが、内製できる企業はGR機能の強化に取り組んでほしい。清廉潔白にこだわり過ぎると勝ち残れない現実を直視すべきだ。

(参考:「日経ビジネス」2023年1月30日号)

経営者のための理念・哲学

宇宙の法則を確認する

1. 青春・朱夏・白秋・玄冬、中国古典の五行説は人生の四季をこう表現している。作家の五木寛之氏は人生の四季を、青春は25歳、朱夏は50歳、白秋は75歳、玄冬はそれ以降と区切っている。それに従えば、現代では朱夏、白秋までは家庭生活を含め現役として社会活動を果たす時期、と言っていいだろう。
2. この時期に大事なことは、因果の法則を味まさないことだろう。善きことをすれば善きことが、悪しきことをすれば、悪しきことが返ってくる。宇宙の法則である。だからこそ私たちは勤勉・誠実・丹精を旨とし謙虚・素直に努め、感謝と感動、知恵・報恩に生きる人生を全うしたい。

(参考:「致知」2023年4月号)

経営者のための危機管理

ホンダの苦悩(小規模ディーラーの多さ)

1. 「毛細血管のよう」。トヨタ自動車や日野自動車と比べて小規模ながら、地場に根差したディーラー(販売会社)が多い自社の販売網を、ホンダ関係者はそう表現する。かつては、それがホンダの強みでもあった。だが、自動車業界激変の大波は、もはや小舟のディーラーでは乗り越えられそうにない。そこでホンダは、今後も販売網を維持していくため、ディーラーの再編を急ぐ。
2. 大きな理由は、やはりEV(電気自動車)化だ。ディーラーの従来の収益源は縮むとみられ、ほかに飯の種を育てなければ食べていけない。「自動車年鑑」によると22年の半ば時点で、ホンダは店舗数2129に対し、ディーラーの法人数は603。他社のディーラー法人数は日産でホンダの5分の1以下、店舗数がホンダの倍以上のトヨタはホンダの半分以下だ。いかにホンダの小規模のディーラーが多いかがわかる。

(参考:「週刊東洋経済」2023年2月11日号)

古典に学ぶ

「心穏やかに生きること」(仏教の目的)

1. 「慧眼」とは「知恵の眼」。物事の真理を見抜く目のことです。仏教の目的は、「心穏やかに生きること」ですが、人の言動や日々の出来事に左右されることなく、平穏な心で生きるには、真理をしっかりと見据える眼を持つことが大切です。
2. 逆にいえば、真理を理解していれば、周囲にどんな雑音や荒波が立とうと、悠然と構えていられるのです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)